リーディングDXスクール事業　【AIパイロット校】

相模原市立中野中学校

＜教育利用＞　「主体的・対話的で深い学び」をめざした目的カテゴリー

生成AIの活用が目的とならないように、生成AIを活用する上で「何のために活用するのか」を明確にするために６つのカテゴリーに分けた。「主体的・対話的で深い学び」をめざすためにカテゴリーを意識し、手立ての一つとして生成AIが活用できるようにした。

～６カテゴリー～

カテゴリー	活用場面	教師の留意点
A. 課題解決・対話的学習	自分の課題（考えや意見）に対し、解決策を探すためにChatGPTにアドバイスを求める。対話を通じて課題を深掘りし、ディベートやディスカッションの仮想相手として活用することで、自分の考えを整理し発展させる。	ChatGPTへの問いかけは補助的な役割にとどめ、生徒が自分で批判的に考え、議論を深めることを促していく。
B. 多面的な見方 多角的な考え方	他者のレポートや自分のレポートをChatGPTに比較させ、共通点や相違点を発見する。また、教師の示した資料や教科書などの内容と自分の考えを読み合わせ、断片的なそれぞれの情報を組み立てる。（構造化）	「なぜ、多様な視点や考え方が必要なのか」を考えさせることが重要である。その過程で価値観を深め、物事を見る視野を広げる力を育ませることを大切にする。
C. メタ認知	振り返りシートや学習カードに記録した内容をChatGPTに読み込ませ、「何ができるようになったか」や「どの部分がまだ課題か」を整理する。	「めあて」や「ゴール」を意識させ、生徒が自分自身で「達成したこと」や「今後の課題」を主体的に振り返る手助けを行う。
D. 個別最適化	自分の学びに合わせてChatGPTに問題を出題させ、それを解くことで知識や理解を深める。また、自分の得意や苦手を把握しながら学習を進めることをできるようにする。	生徒が根拠を持って答えを導き出せるよう工夫する必要がある。解答後には「なぜそうなるのか」を振り返らせ、学んだ内容を確実に理解させる。
E. 語彙力・表現力育成	言葉の言い回しや表現方法のバリエーションをたずねる。同じ内容を異なる言い方で表現する練習を通じて、語彙力や文章力を高める。難しい表現については、具体例を挙げて説明できるようにする。	生徒自身の言葉で要約させたり、アウトプット（コミュニケーション）させたりすることで、表現のニュアンスを理解させる必要がある。
F. 文章添削・評価	英作文や感想文、レポートをChatGPTに添削してもらう。さらに、評価の観点を具体的に示してもらうことで、自分自身で良い部分や改善点を把握できるようにし、向上目標をもつ。	ChatGPTの添削を参考にしつつ、最終的な評価は教師が行い、生徒が自らの進歩を確認できるように導く。